

# 名古屋圏における子育て世帯の 居住地選択要因に関する研究

---

名古屋都市センター調査課  
研究主査 前田 翼

# 1. はじめに

## 背景

- 名古屋市は社会増減数をみると、中部からは社会増
- 名古屋市→中部を年齢別にみると、0～14歳は約800人の社会減、他の年齢層は社会増
- 子育て期には、住宅の広さ、住宅費、通勤、教育、親族支援、生活利便などを踏まえて、居住地を選び直す動きが一定程度あると考えられる

名古屋市→各地域 人口社会増減数（2023年10月～2024年9月）

名古屋市	総数	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	国外
社会増減数	16,820	65	286	-5,763	7,609	-490	680	394	-84	14,123
転入量	113,727	1,110	1,482	17,045	54,068	9,633	2,186	1,019	4,069	23,115
転出量	96,907	1,045	1,196	22,808	46,459	10,123	1,506	625	4,153	8,992

名古屋市→中部 年齢層別人口社会増減数（2023年10月～2024年9月）

名古屋市→中部	全年齢	0～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳～
社会増減数	7,609	-784	441	3,670	2,169	444	665	342	177	485
転入量	54,068	3,335	2,483	12,647	13,409	10,962	4,513	3,085	915	2,719
転出量	46,459	4,119	2,042	8,977	11,240	10,518	3,848	2,743	738	2,234

プラスの値は名古屋市への転入超過、マイナスの値は名古屋市からの転出超過を示す

# 1. はじめに

## 背景

- 子育て世帯では夫婦共働きの割合が増加しており、愛知県・名古屋市でも全国と同様の傾向
- 共働き子育て世帯は、就業と育児の両立に伴い、通勤・送迎・買い物等の時間制約が強まりやすい
- 子育て期にみられる居住地移動には、共働き化の進展に伴い、居住地を選ぶ要因にも変化が生じている可能性

### 子どもあり世帯の夫婦共働き・片働き世帯数・割合

		世帯数[世帯]			割合[%]		
		2010年	2015年	2020年	2010年	2015年	2020年
全国	夫婦共働き+子あり (18歳未満) (DEWKS)	5,420,530	5,758,265	5,008,255	57.4%	64.6%	71.3%
	夫婦片働き+子あり (18歳未満) (SEWKS)	4,014,969	3,156,565	2,018,375	42.6%	35.4%	28.7%
	計	9,435,499	8,914,830	7,026,630	100.0%	100.0%	100.0%
愛知県	夫婦共働き+子あり (18歳未満) (DEWKS)	343,329	373,115	333,295	55.7%	62.3%	74.3%
	夫婦片働き+子あり (18歳未満) (SEWKS)	273,569	226,029	115,198	44.3%	37.7%	25.7%
	計	616,898	599,144	448,493	100.0%	100.0%	100.0%
名古屋市	夫婦共働き+子あり (18歳未満) (DEWKS)	85,777	95,891	90,983	51.3%	58.8%	70.6%
	夫婦片働き+子あり (18歳未満) (SEWKS)	81,532	67,146	37,872	48.7%	41.2%	29.4%
	計	167,309	163,037	128,855	100.0%	100.0%	100.0%

出典：2010年, 2015年, 2020年国勢調査（就業状態等基本集計）

## 目的

- 名古屋市及び周辺市を対象に、子育て世帯が転居時に重視する条件を整理し、居住地選択に影響する要素を明らかにする

# 1. はじめに

## 全体構成

1. はじめに 調査研究の内容・体制を整理
2. 統計データ分析 子育て世帯が選択する居住地の動向を整理
3. アンケート調査 名古屋市・周辺市に居住する子育て世帯の転居時の要因や選好を調査
4. まとめ 子育て世帯が居住地を選ぶ際の要因を整理

## 仮説

- 子育て世帯の居住地選択において、住宅費／住まいの広さ／通勤・送迎・買い物等の時間制約が複合的に影響しているのでは
- 買い物・医療・保育・交通等の都市機能の利便性は、居住地選択時に考慮されるものの、決定要因としては住宅費や住まいの広さより相対的に弱いのでは

## 2. 統計データ分析

### 名古屋市→県内市への年齢別社会増減数

- 0～14歳の名古屋市からの転出超過が多い都市（2023.10～2024.9の1年間で20人以上）は、一宮市、瀬戸市、春日井市、小牧市、東海市、大府市、尾張旭市、愛西市、清須市、あま市、長久手市の11市であり、名古屋市居住者と11市居住者に着目し、居住実態・選択要因を比較

名古屋市→県内市 年齢層別社会増減数（2023年10月～2024年9月）

	市部 総数	豊橋市	岡崎市	一宮市	瀬戸市	半田市	春日井市	豊川市	津島市	碧南市	刈谷市	豊田市	安城市	西尾市	蒲郡市	犬山市	常滑市	江南市	小牧市
0～14歳	-573	32	-6	-97	-58	-3	-28	-11	-9	4	43	19	22	16	-2	-15	-14	-16	-29
15～24歳	1,432	189	84	51	81	70	109	33	10	29	45	43	21	70	19	73	20	50	21
30～39歳	138	84	-10	-68	17	71	15	-5	7	7	115	144	-9	61	10	2	32	-3	-5
40～49歳	476	27	37	-3	-9	16	31	-10	8	13	39	54	4	23	4	10	-1	7	16
	稲沢市	新城市	東海市	大府市	知多市	知立市	尾張旭市	高浜市	岩倉市	豊明市	日進市	田原市	愛西市	清須市	北名古屋市	弥富市	みよし市	あま市	長久手市
0～14歳	-13	3	-54	-55	-18	-9	-86	-3	-6	8	-17	-4	-33	-20	11	-3	17	-74	-65
15～24歳	-5	36	-1	8	46	-9	54	34	-30	14	126	21	60	-9	19	2	19	-8	37
30～39歳	-13	0	-29	-71	4	-12	-41	-12	-23	30	11	20	-21	-70	-11	-6	50	-51	-82
40～49歳	29	-1	4	20	20	12	-6	19	20	21	57	-4	3	25	17	4	8	-23	-15

プラスの値は名古屋市への転入超過、マイナスの値は名古屋市からの転出超過を示す

出典：2024年度愛知県人口動態調査（名古屋市版）（2023年10月～2024年9月）

# 3. Webアンケート調査（調査概要）

## 調査概要

調査期間	2026年1月8日～15日	
調査対象	2015年4月以降に転居を経験された方 転居時の長子の年齢が14歳以下 現在、名古屋市又は11市居住者	
回答者属性	名古屋市	580名
	11市	384名
	計	964名
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・属性（性別、年齢、職種、出身地等）</li> <li>・転居理由、居住場所の選択要因</li> <li>・転居前後の生活実態の変化</li> </ul>	

## 転居後の居住地（左：名古屋市、右：11市）

転居後：名古屋市	人数	割合
名古屋市千種区	59	10.2%
名古屋市東区	26	4.5%
名古屋市北区	36	6.2%
名古屋市西区	35	6.0%
名古屋市中村区	27	4.7%
名古屋市中区	17	2.9%
名古屋市昭和区	25	4.3%
名古屋市瑞穂区	33	5.7%
名古屋市熱田区	10	1.7%
名古屋市中川区	46	7.9%
名古屋市港区	22	3.8%
名古屋市南区	26	4.5%
名古屋市守山区	55	9.5%
名古屋市緑区	69	11.9%
名古屋市名東区	46	7.9%
名古屋市天白区	48	8.3%
計	580	100.0%

転居後：11市	人数	割合
一宮市	103	26.8%
瀬戸市	28	7.3%
春日井市	72	18.8%
小牧市	28	7.3%
東海市	20	5.2%
大府市	30	7.8%
尾張旭市	20	5.2%
愛西市	13	3.4%
清須市	18	4.7%
あま市	22	5.7%
長久手市	30	7.8%
計	384	100.0%

# 3. Webアンケート調査（基礎集計）

## 転居前の居住地（左：転居後名古屋市居住者、右：転居後11市居住者）

転居後：名古屋市	人数	割合
北海道	5	0.9%
東北	14	2.4%
関東	55	9.5%
中部	479	82.6%
うち愛知県	445	76.7%
名古屋市千種区	29	5.0%
名古屋市東区	18	3.1%
名古屋市北区	31	5.3%
名古屋市西区	23	4.0%
名古屋市中村区	26	4.5%
名古屋市中区	11	1.9%
名古屋市昭和区	15	2.6%
名古屋市瑞穂区	22	3.8%
名古屋市熱田区	9	1.6%
名古屋市中川区	42	7.2%
名古屋市港区	18	3.1%
名古屋市南区	22	3.8%
名古屋市守山区	29	5.0%
名古屋市緑区	36	6.2%
名古屋市名東区	27	4.7%
名古屋市天白区	28	4.8%
一宮市	5	0.9%
瀬戸市	2	0.3%
春日井市	6	1.0%
小牧市	1	0.2%
東海市	2	0.3%
大府市	2	0.3%
尾張旭市	0	0.0%
愛西市	1	0.2%
清須市	2	0.3%
あま市	1	0.2%
長久手市	2	0.3%
その他市町村	34	5.9%
わからない	1	0.2%
近畿	12	2.1%
中国	4	0.7%
四国	0	0.0%
九州	4	0.7%
海外	7	1.2%
計	580	100.0%

名古屋市から  
名古屋市への  
転居は約67%

11市から  
名古屋市への  
転居は約4%

転居後：11市	人数	割合
北海道	1	0.3%
東北	1	0.3%
関東	18	4.7%
中部	353	91.9%
うち愛知県	335	87.2%
名古屋市千種区	3	0.8%
名古屋市東区	1	0.3%
名古屋市北区	3	0.8%
名古屋市西区	5	1.3%
名古屋市中村区	2	0.5%
名古屋市中区	1	0.3%
名古屋市昭和区	1	0.3%
名古屋市瑞穂区	1	0.3%
名古屋市熱田区	2	0.5%
名古屋市中川区	5	1.3%
名古屋市港区	3	0.8%
名古屋市南区	4	1.0%
名古屋市守山区	4	1.0%
名古屋市緑区	5	1.3%
名古屋市名東区	2	0.5%
名古屋市天白区	2	0.5%
一宮市	70	18.2%
瀬戸市	8	2.1%
春日井市	52	13.5%
小牧市	23	6.0%
東海市	12	3.1%
大府市	16	4.2%
尾張旭市	16	4.2%
愛西市	1	0.3%
清須市	13	3.4%
あま市	12	3.1%
長久手市	14	3.6%
その他市町村	52	13.5%
わからない	2	0.5%
近畿	4	1.0%
中国	1	0.3%
四国	0	0.0%
九州	1	0.3%
海外	5	1.3%
計	384	100.0%

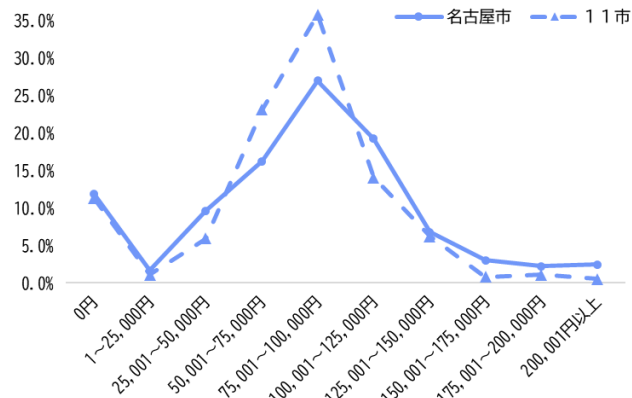
名古屋市から  
11市への  
転居は約12%

11市から  
11市への  
転居は約62%

# 3. Webアンケート調査（基礎集計）

## 転居後の毎月の住宅費（住宅ローン・家賃等）

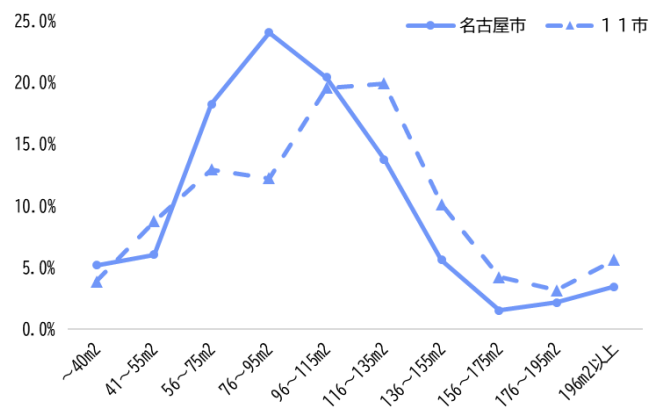
	名古屋市	11市
0円	11.9%	11.3%
1~25,000円	1.7%	1.1%
25,001~50,000円	9.6%	5.9%
50,001~75,000円	16.2%	23.1%
75,001~100,000円	26.9%	35.8%
100,001~125,000円	19.2%	14.1%
125,001~150,000円	6.8%	6.2%
150,001~175,000円	3.0%	0.8%
175,001~200,000円	2.3%	1.1%
200,001円以上	2.4%	0.6%
計	100.0%	100.0%



月額10万円より大きい割合は、名古屋市約33%、11市約23%

## 転居後の住宅の広さ

	名古屋市	11市
~40m <sup>2</sup>	5.1%	3.8%
41~55m <sup>2</sup>	6.0%	8.7%
56~75m <sup>2</sup>	18.2%	12.9%
76~95m <sup>2</sup>	24.0%	12.2%
96~115m <sup>2</sup>	20.3%	19.5%
116~135m <sup>2</sup>	13.7%	19.9%
136~155m <sup>2</sup>	5.6%	10.1%
156~175m <sup>2</sup>	1.5%	4.2%
176~195m <sup>2</sup>	2.1%	3.1%
196m <sup>2</sup> 以上	3.4%	5.6%
計	100.0%	100.0%



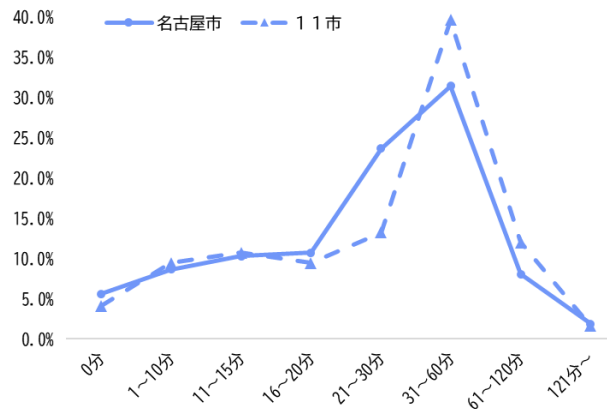
96m<sup>2</sup>以上の割合は、名古屋市約47%、11市約62%

- 名古屋市は相対的に住宅費が高く、11市は広い住宅を確保する割合が高い

# 3. Webアンケート調査（基礎集計）

## 転居後の通勤時間

	名古屋市	11市
0分	5.5%	4.1%
1～10分	8.6%	9.4%
11～15分	10.3%	10.7%
16～20分	10.7%	9.4%
21～30分	23.6%	13.2%
31～60分	31.4%	39.6%
61～120分	8.0%	11.9%
121分～	1.8%	1.6%
計	100.0%	100.0%



通勤時間30分以内の割合は、名古屋市約**57%**、11市約**47%**

## 実家又は義実家の所在地

	名古屋市	11市
あなたの居住地と同一市区内	43.3%	44.5%
あなたの居住地の隣接市区内	21.4%	22.1%
上記、いずれも当てはまるものはない	35.3%	33.3%
計	100.0%	100.0%

実家又は義実家が同一又は隣接市区にある割合は、名古屋市約**65%**、11市約**67%**と高い

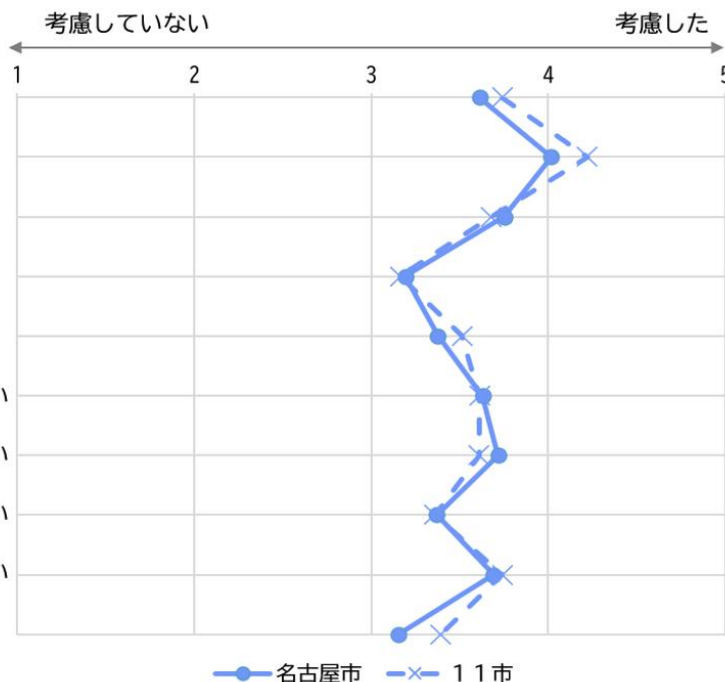
- 通勤時間は名古屋市の方が短く、実家・義実家が近い割合は名古屋市・11市ともに高い

# 3. Webアンケート調査（基礎集計）

## 転居する際に考慮した内容の平均評価点※

※5段階（5とても考慮した／4やや考慮した／3どちらでもない／2あまり考慮していない／1考慮していない）の平均値

1. 住宅費の負担を抑えたい／家計を安定させたい（家賃・返済の水準）
2. 住まいの広さ・部屋数を確保したい（収納含む）
3. 通勤のしやすさ（時間・乗換・渋滞）
4. 在宅勤務や働き方に合う住環境にしたい（部屋・通信・静けさ）
5. 保育園・学童が利用しやすい（お迎え時刻・休日預かりなど）
6. 学区・教育環境を重視したい
7. 日常の買い物・医療など生活利便を重視したい
8. 公園・遊び場など子どもの生活環境を重視したい
9. 安全・治安／災害リスクの低さを重視したい
10. 実家・親族の近さ（育児支援・介護のしやすさ）



名古屋市・11市 2. 住まいの広さ／3. 通勤しやすさ／1. 住宅費／7. 生活利便／9. 安全・治安の平均評価点が高い

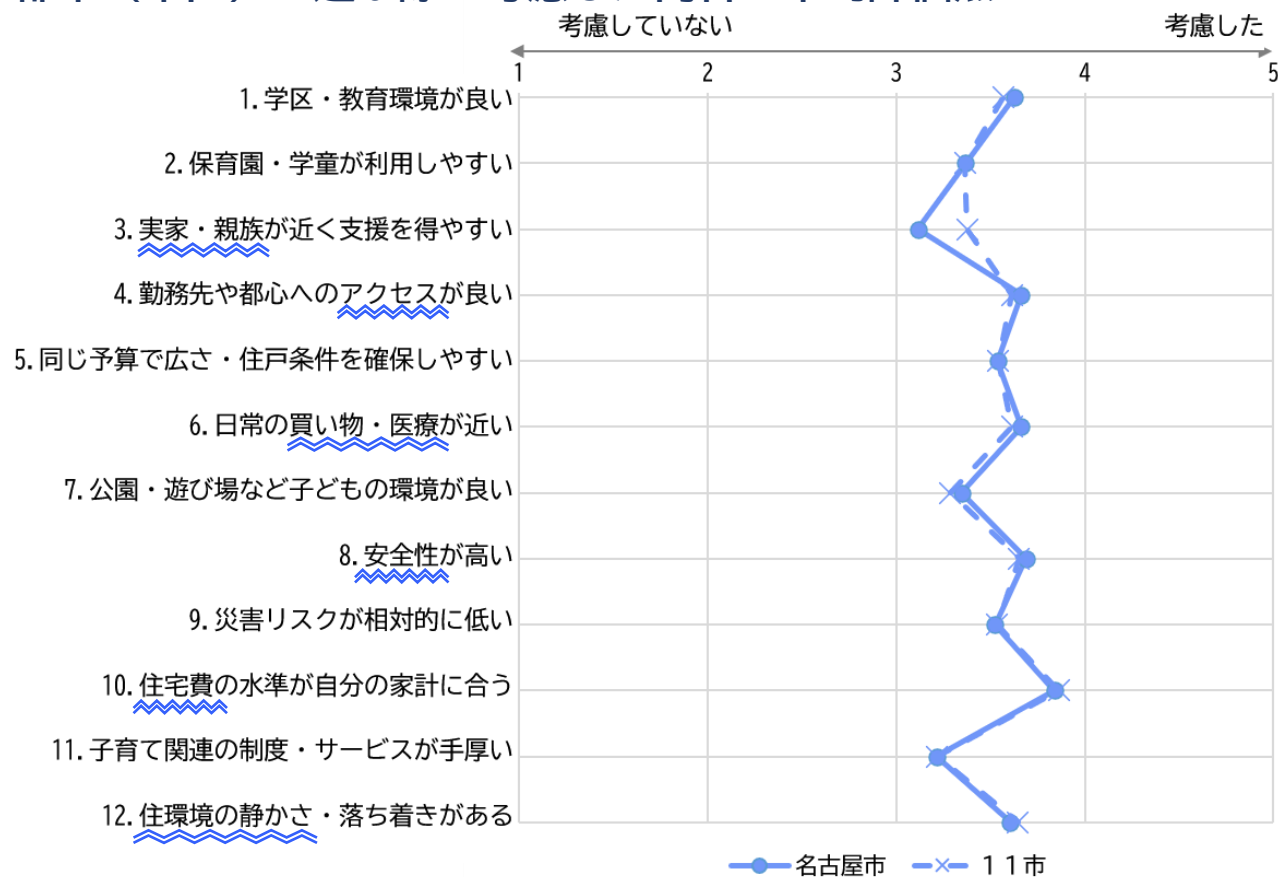
名古屋市 > 11市 3. 通勤しやすさ／7. 生活利便が高い

名古屋市 < 11市 1. 住宅費／2. 住まいの広さ／5. 保育園・学童／10. 実家・親族の近さが高い

➤ 名古屋市・11市ともに、住まいの広さが最上位の条件であり、広さは共通条件であるが、その次に重視される条件は名古屋市と11市で異なる

# 3. Webアンケート調査（基礎集計）

## 転居先の都市（市区）を選ぶ際に考慮した内容の平均評価点



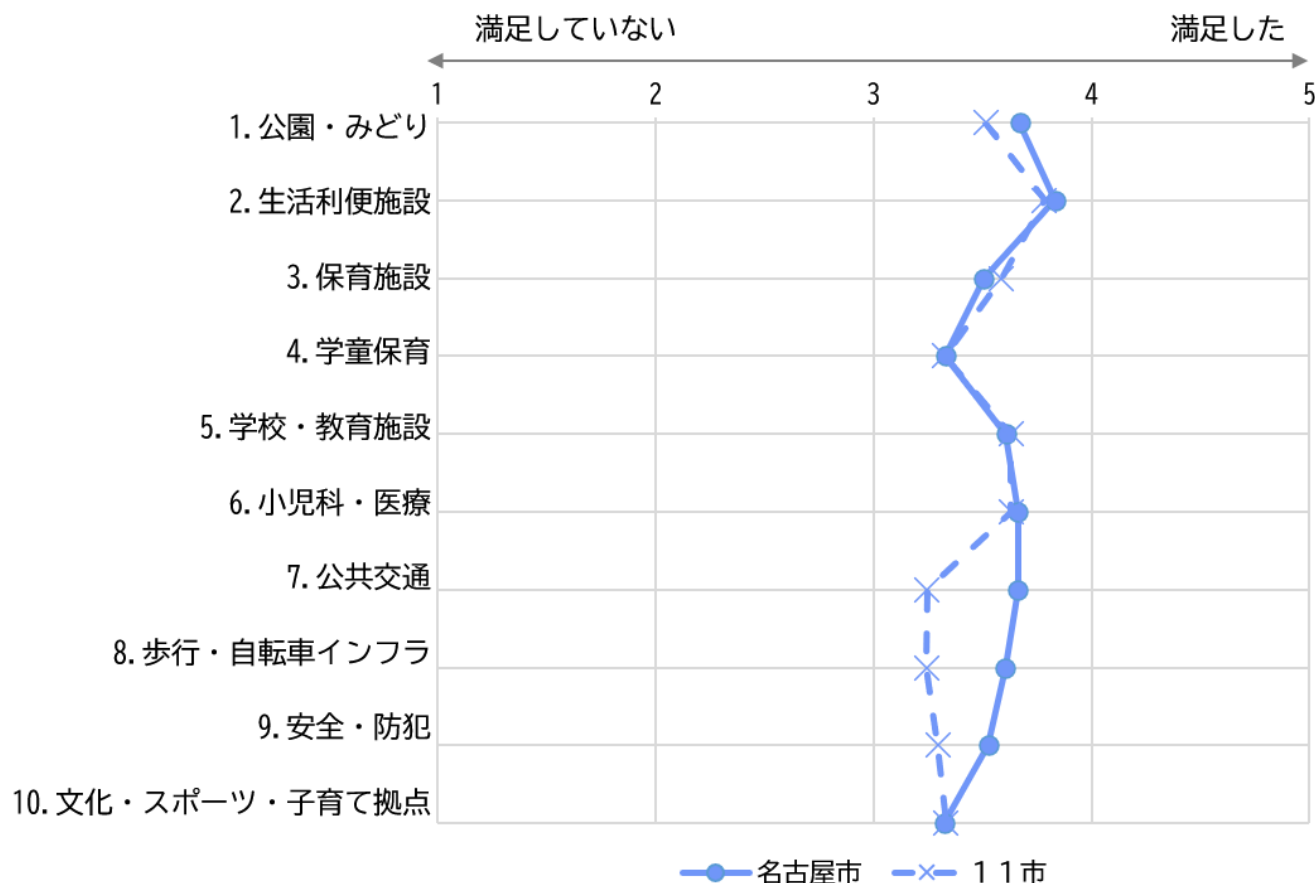
名古屋市・11市 10. 住宅費／6. 日常の買い物・医療の近さ／4. 勤務先へのアクセス／  
8. 安全／12. 住環境の静かさの平均評価点が高い

名古屋市 < 11市 3. 実家・親族の近さが高い

➤ 名古屋市居住者と比較して、11市居住者は、実家・親族の近さを居住する都市（市区）を選択する条件としてより重視する傾向

# 3. Webアンケート調査（基礎集計）

## 住居周辺の施設及びサービスの満足度の平均評価点



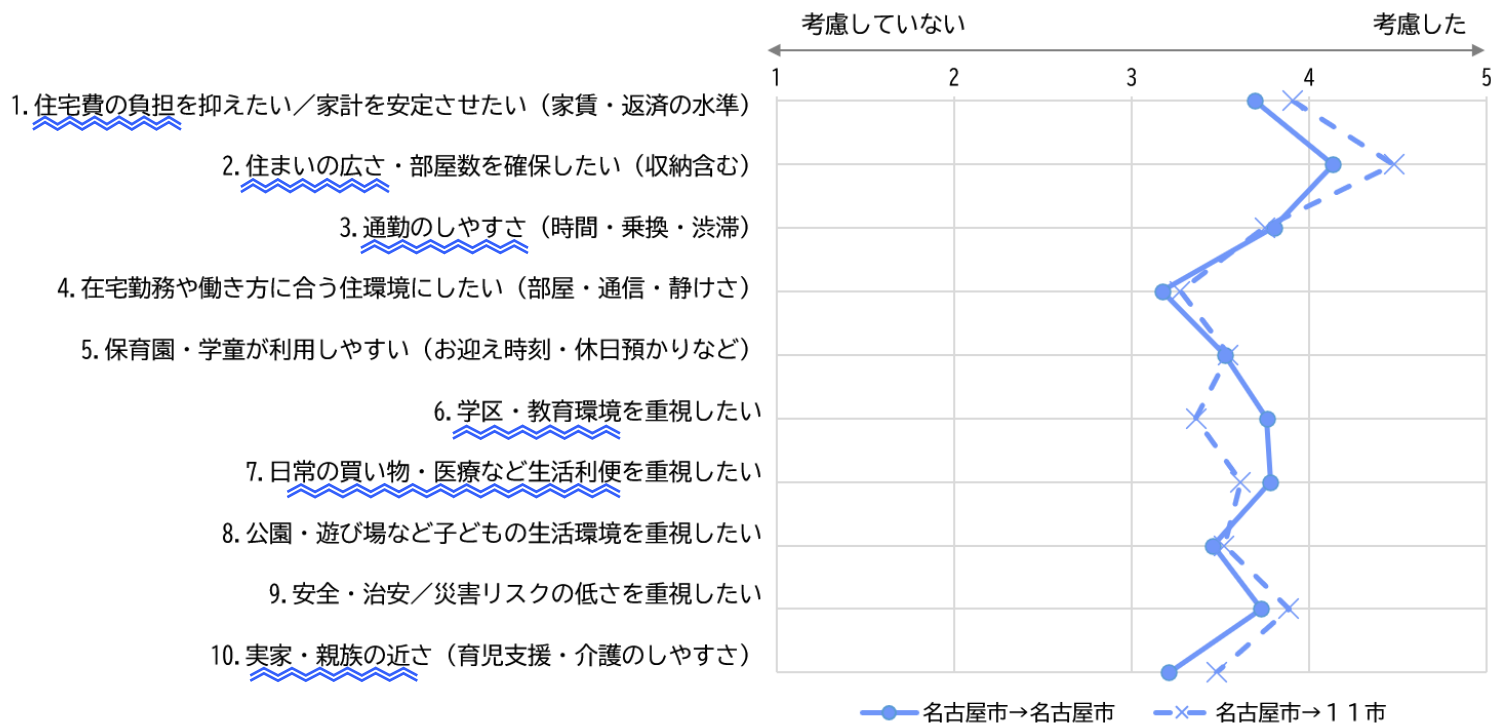
名古屋市・11市 2.生活利便／6.小児科・医療／1.公園・みどり／5.学校・教育施設が高い  
 名古屋市>11市 7.公共交通／8.歩行・自転車インフラが高い

➤ 名古屋市と11市で、日常生活を行うための施設（生活利便・医療・公園）の満足度に大きな差はないが、交通インフラの満足度に差が生じている

# 3. Webアンケート調査（抽出集計）

「転居前：名古屋市居住者」（名古屋市→名古屋市：386人、名古屋市→11市：44人）

転居する際に考慮した内容の平均評価点



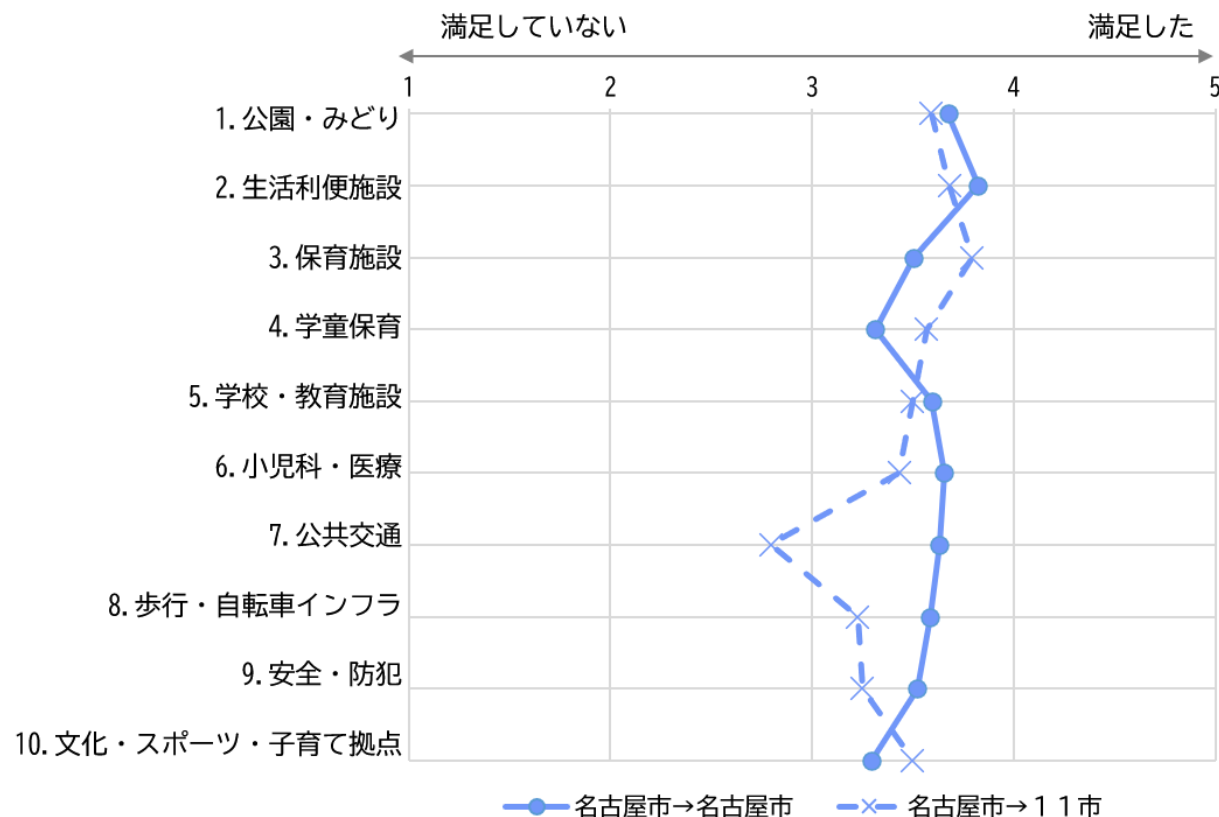
名古屋市→名古屋市 6. 学区・教育環境／7. 買い物・医療が高い  
 名古屋市→11市 2. 住まいの広さ／1. 住宅費／10. 実家・親族の近さが高い

➤ 名古屋市内で転居された層では、教育環境や生活利便が重視されており、11市へ転居された層は、住まいの広さや住宅費の負担が重視されている

### 3. Webアンケート調査（抽出集計）

「転居前：名古屋市居住者」（名古屋市→名古屋市：386人、名古屋市→11市：44人）

住居周辺の施設及びサービスの満足度の平均評価点



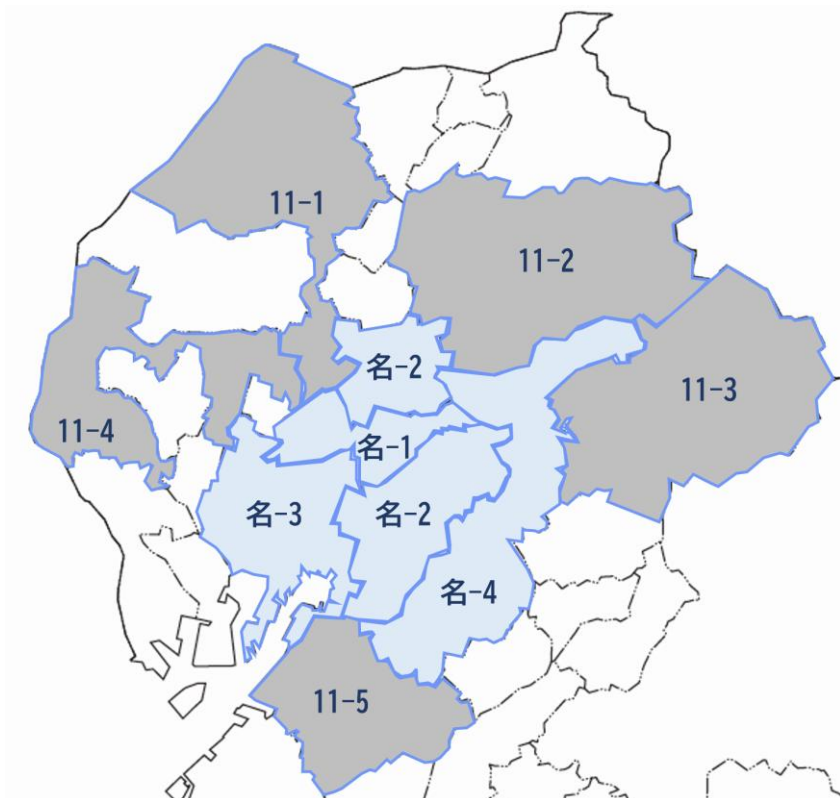
名古屋市→名古屋市 7. 公共交通／8. 歩行・自転車インフラ／9. 安全が高い  
 名古屋市→11市 3. 保育施設／4. 学童保育／10. 文化・スポーツ・子育て拠点が低い

➤ 名古屋市から11市へ転居された層では、保育施設／学童保育／文化・スポーツ・子育て拠点といった子どもの生活に関する施設の満足度が相対的に高い

# 3. Webアンケート調査（エリア別集計）

## エリア分類

- 名古屋市・11市を9エリアに分類し、エリア毎に子育て世帯の転居要因を整理



名-1	名古屋市 中区・中村区・東区	70人
名-2	名古屋市 千種区・北区・西区・昭阳区・瑞穂区・熱田区・南区	224人
名-3	名古屋市 中川区・港区	68人
名-4	名古屋市 守山区・緑区・名東区・天白区	218人
11-1	一宮市・清須市	121人
11-2	春日井市・小牧市	100人
11-3	瀬戸市・尾張旭市・長久手市	78人
11-4	あま市・愛西市	35人
11-5	東海市・大府市	50人

# 3. Webアンケート調査（エリア別集計）

## 転居する際に考慮した内容の平均評価点

	名-1 中 中村 東	名-2 千種 北 西 昭和 瑞穂 熱田 南	名-3 中川 港	名-4 守山 緑 名東 天白	11-1 一宮 清須	11-2 春日井 小牧	11-3 瀬戸 尾張旭 長久手	11-4 あま 愛西	11-5 東海 大府
1. 住宅費の負担	3.64	3.63	3.47	3.62	3.64	3.81	3.73	4.17	3.56
2. 住まいの広さ	4.01	4.01	3.88	4.07	4.16	4.18	4.29	4.34	4.24
3. 通勤しやすさ	3.93	3.83	3.40	3.72	3.55	3.75	3.74	3.54	3.82
4. 働き方に合う住環境	3.29	3.27	2.84	3.19	3.16	3.13	3.22	2.91	3.34
5. 保育園・学童	3.17	3.57	2.97	3.36	3.58	3.64	3.45	3.57	3.16
6. 学区・教育環境	3.46	3.68	3.13	3.78	3.65	3.73	3.67	3.34	3.38
7. 日常の買い物・医療	3.69	3.84	3.13	3.78	3.60	3.65	3.67	3.40	3.62
8. 公園・遊び場	3.21	3.46	2.76	3.52	3.30	3.46	3.47	3.17	3.26
9. 安全・治安・災害リスク	3.66	3.71	2.79	3.95	3.60	3.80	3.95	3.49	3.82
10. 実家・親族の近さ	3.13	3.12	2.87	3.28	3.41	3.50	3.33	3.49	3.16

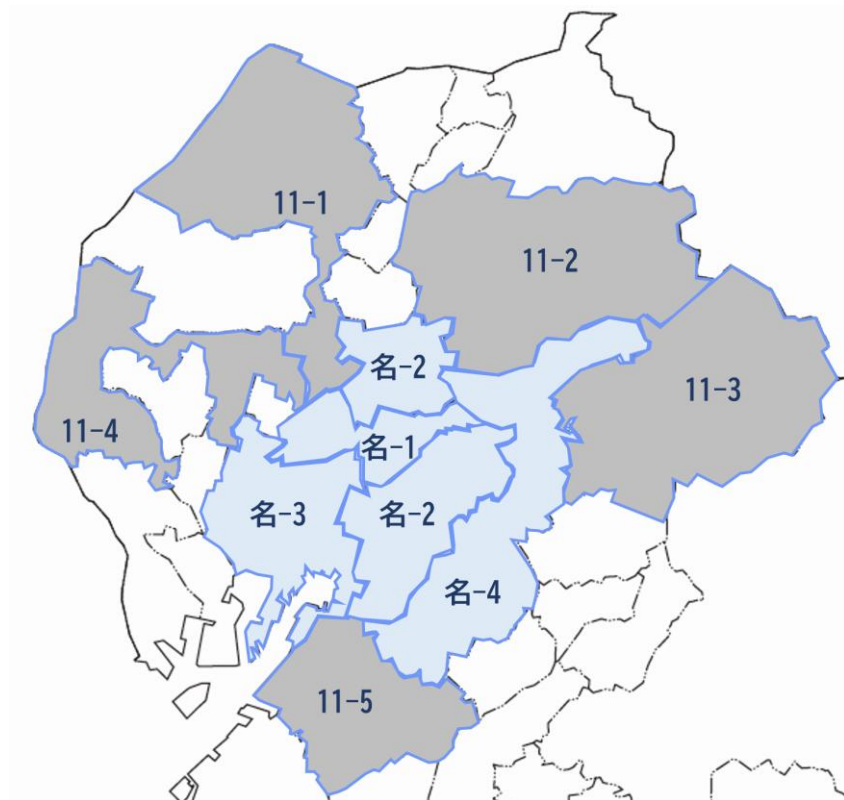
0.00 エリア内上位1~3位

0.00 エリア内下位1~3位

➤ 住まいの広さは、全てのエリアにおいて平均評価点が最も高い

### 3. Webアンケート調査（エリア別集計）

転居する際に考慮した内容（住まいの広さを除き、相対的に重視されている内容）



名-1 通勤のしやすさ／生活利便（買い物・医療）

名-2 生活利便（買い物・医療）／通勤のしやすさ

名-3 住宅費／通勤のしやすさ

名-4 学区・教育環境／生活利便（買い物・医療）／安全・治安

11-1 学区・教育環境／住宅費

11-2 住宅費／安全・治安

11-3 安全・治安／通勤しやすさ

11-4 住宅費／保育園・学童

11-5 通勤しやすさ／安全・治安

## 4. まとめ

- 住まいの広さと住宅費は、子育て世帯の居住地選択における基礎条件、特に住まいの広さは、名古屋市・11市で共通して最も高く、子育て世帯にとって中心的な条件
- 一方で、重視される条件は、住宅の広さ／住宅費だけでなく、名古屋市では学区・教育環境、通勤しやすさ、生活利便が相対的に高く、11市では実家・親族の近さ、保育園・学童、住宅費が相対的に高い傾向
- 住居周辺の施設・サービスの満足度では、名古屋市は公共交通、歩行・自転車インフラが相対的に高く、名古屋市から11市へ転居した層では保育施設／学童保育／文化・スポーツ・子育て拠点が相対的に高い傾向
- 重視される条件の組合せはエリアによって異なり、名古屋市では、都心部は通勤や生活利便、東側住宅地は学区・教育環境や安全・治安、11市では住宅費、保育園・学童、安全・治安などが相対的に重視